

誓約

服従



Presented by
KUSARI

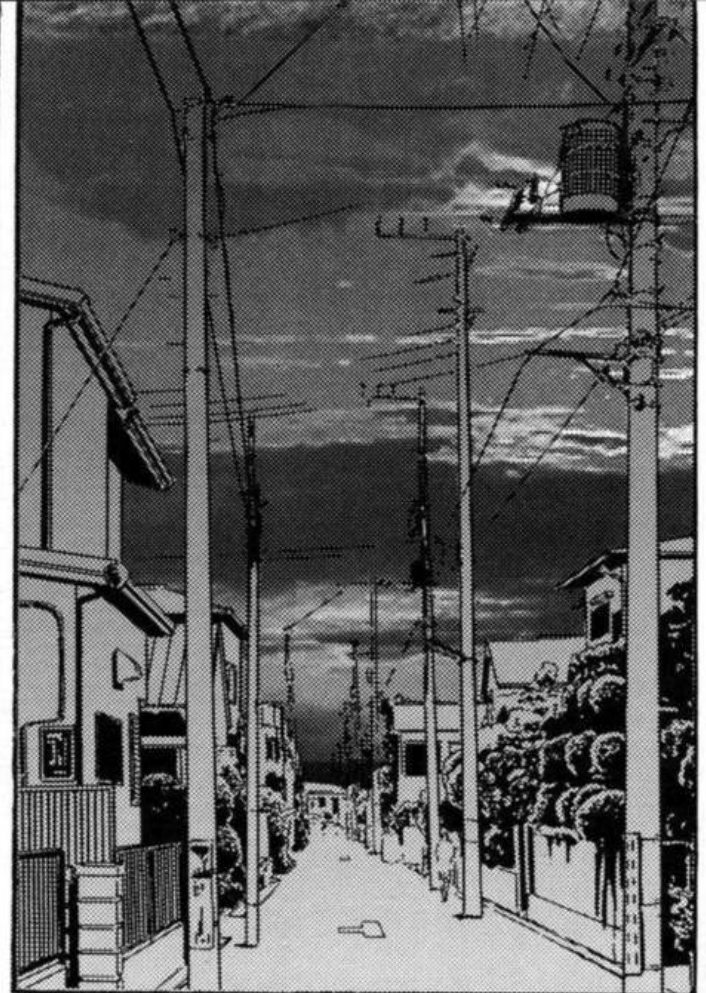
成人向

I



…前回の映画を
観させてもらい
ましたけど

演出や脚本とか
テンポも良くて
面白かったです



それにはぜひ
見る者の目を引く
魅力のある女優が
欲しいんだよ

前回入賞を逃した
あの作品の欠点は
主演女優の魅力が
不足していたこと
だからな…

映研の作る安い
自主制作映画だと
主演女優の与える
影響は大きい



大学の映画研究会で
あんなに良い映画が
制作できるなんて
凄いですね

確かに評価は高くて
佳作をとれたけど…
入賞ではないからな

佳作でも
十分凄じや
ないですか

まあな…それで
今回はより一層
この映画制作に
力をいれて

次の学生映画賞は
入賞を狙おうと
思うんだが…

だから俺は
あまり手放しで
喜べなかったよ

女優次第で
評価はかなり
違うだろう

俺は…女優よりも
演出やシナリオの
ほうが遥かに大事
だと思えますけど

そうよね…女優が
あまり目立ちすぎ
るのは良くないわ

でもそれだと
また佳作止まり
だと思っけどな

前回のような
演出重視の路線で
いいと思う

俺はまだ映研に
入会したばかりで
よくわからない
ですけど…

確かに学内でも
特に映研には
美人が多いって
有名なものね

綺麗な女性なら
映研に沢山いる
じゃないですか

演技が上手な方も
いましたし
特に問題はないと
思いますけど…

タカ坊は昔から
女性受けが良いし
誘惑されないか
私は心配してるん
だけどねえ

…でもそんな女性達の
誘惑よりも私が本当に
心配していることは

私の隣に座っている
この男の存在…

この最低男が映研に
いるということ

キッ

私が心底嫌悪する男：
この男は大学の同期で
名前は横田雅彦
私の大学では有名な
イケメンナンパ男

女性との交際関係は
数知れず女性の扱いや
接し方が非常に上手く
学内の女性に絶大な
人気があるらしい

女性関係が派手な彼に
悪い噂も絶えず
恋人を奪われた男性も
沢山いると聞いた

服従誓約

私はこの男が心底嫌い
だし顔も見たくない：
でもそういうわけには
いかない事情がある：

私と幼馴染のタカ坊
が恋人同士の関係に
なったのは…

私が高校を卒業後
大学に進学して
間もなくのこと

タカ坊からの電話で
私を好きだと真剣に
想いを告げられ…

動揺し狼狽えながらも
今までずっと心に秘め
ていた彼に恋する想い
を私も告白した



タカ坊が高校を卒業
してから私達は同棲
するようになった

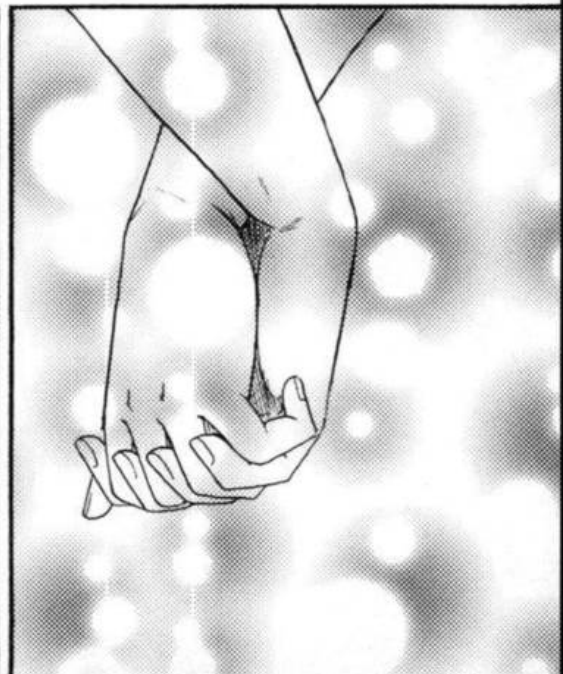
この春私と同じ大学に
進学したタカ坊とは
いつも一緒に生活…


私は本当に充実した
日々を過ごしていた



このままずっとこの
幸せな生活が続いて
欲しいといつも願う


タカ坊が大学に進学する
少し前の3月頃…
私は大学で同期の男性に
交際してほしいと
申し込まれたことがある





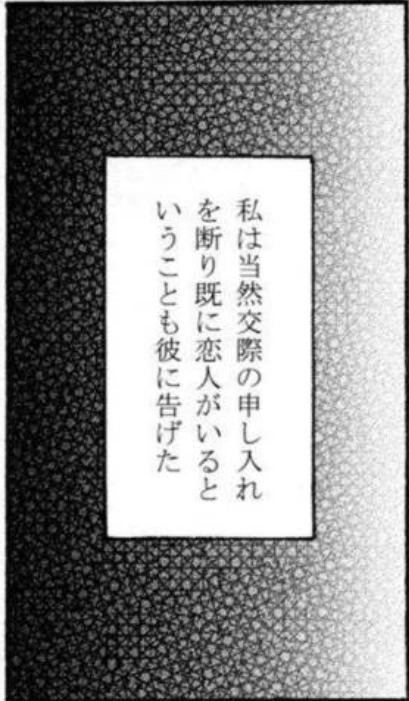
その男性が横田雅彦
学内でかなり有名な
女たらしの男：

大学の友人との話題に
もよく出ていたので
名前だけは知っていた




一緒にいる女性が
毎日違うらしく：

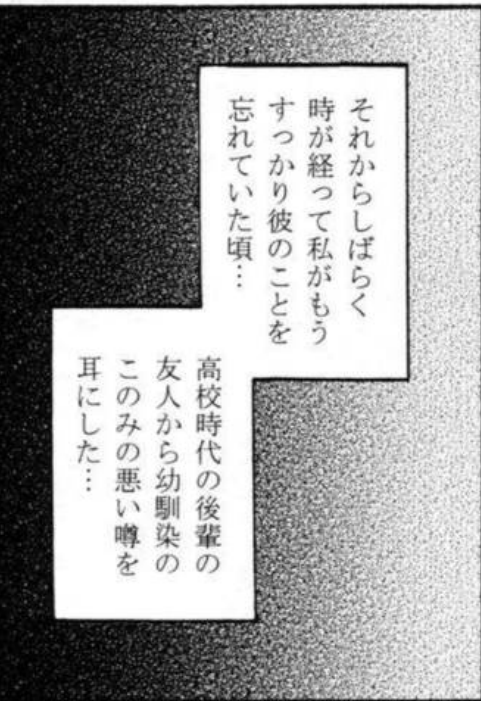
彼に大切な恋人を
奪われ恨んでる人達が
沢山いるという



私は当然交際の申し入れ
を断り既に恋人がいると
いうことも彼に告げた




…その時私に見せた
彼の暗い冷淡な瞳に
私は恐怖を感じたわ




それからしばらく
時が経って私がもう
すっかり彼のことを
忘れていた頃：

高校時代の後輩の
友人から幼馴染の
このみの悪い噂を
耳にした：



最近このみに
大学生の彼氏が
できたらしく



その大学生の男性と
付き合い始めてから
優等生だったこのみが
学校をよく不登校する
ようになったという：

そしてその彼氏の名前が横田雅彦だと聞いたとき……

私は一瞬硬直し今まで忘れ去っていたあの男に関する悪い噂などの記憶が脳内で甦った

……私が以前振ったあの女たらしの男がいつの間にかこのみの彼氏になってるなんて……

……でも偶然にしてはあまりにも不可解だしどう考えてみてもこのみとあの男の接点が見つからない



とても嫌な予感が私の脳裏をよぎった……このままではこのみが傷つくことになる

このみからそれが事実だと知らされた時私は驚き動揺しつつも横田がどういう男かをあのこに伝えた

横田と別れさせないとこのみが必要不幸になると思った私はあのこを必死に説得したわ



そう考えた私は何よりもこのみのことが心配になりあのこに電話して真偽の程を確かめようと思った……

……でもこのみは私の話を全く聞き入れてくれず相手にもしてくれない

以前なら私の話をもっとしっかりと受けとめて聞いてくれたはずなのに



私の知っている
以前のこのみとは
明らかに何かが違う

私はもうなりふり
構っていられず
あの男の元へ行き

彼にこのみとの
恋人関係について
裏がないのか真実を
聞いた

私とあのこの間に
何か大きな溝が
あるのを感じた：

勿論このみの恋愛事情に
私がどうこう言うのは
間違っているけれど
でもそれは恋愛相手が
この男でなければの話：

私は厳しい口調で何故
このみに近づいたのかを
彼に問い詰めた

二人が出会うには
接点が無いに等しい
絶対何か裏があると
私は確信していた


：しかし横田は
不敵な笑みを浮かべ
肝心なことは何一つ
答えようとせず

他人の恋愛ことに
口を挟むなど
彼に言い返された


そしておもむろに
彼は自分の携帯電話
の画像を見せ：

「これが俺とこのみの
今の関係だよ」と
私に言い放った

そして私はとても
信じられないものを
目にした：




：彼が差し出したその
携帯画像にはこのみの
痴態がはつきりと映し
出されていた




私は今ここで自分が
目になっているものを
事実として受け入れ
られなかった：

画像はいくつもあり
その中でこのみは
男達と卑猥な性交を
重ねていたのだ




このみの身体には
もう幼さが無くなり
その表情からは色気
さえも感じられる


これが本当に幼馴染み
の柚原このみなのかと
真偽を疑った




それは私の知っている
幼く純真無垢なこのみ
ではなく軽薄で尻軽な
女性として写っていた




私は全く動けず画像に釘付けになり石のように固まってしまっていたとても早い心臓の鼓動が聞こえてくる…




私はその時とても冷静な状態ではいらなかったけど…この画像から一つ感じられたことがある



それはこのみが強要されているわけではなく合意の上で男達と行為に及んでいるということ




私は込み上げてくる怒りの感情をとても抑えられなかった




その痴態画像には縄で縛られ男達に弄ばれるこのみの姿がいくつか映し出され私はそれをとても直視できなかった

このみと話したときに明らかにあのこの様子がおかしいとは感じていたその答えがここにある…これが今のこのみの姿




怒りの衝動から
私は彼の頬を
思いっきり
平手打ちしていた




これまでの人生の中で
私が誰かに対して
こんなに激しく怒りを
感じたことは無い

無言で彼を睨み付け
ながら私はこれから
自分がどうするべき
かを考えていた…




何とかしないと
いけない…

でもこのみがこの男に
好意を持ち自ら進んで
それを望んでいる以上



この二人の仲を引き裂く
のは相当難しい…
だけどこのまま放置して
おくことは私には絶対に
出来ない

この最低男からすぐに
引き離さないと…
このみがどんどん深み
に堕ちてしまう



私は無理を承知で
彼にこのみと今すぐ
別れるように言った

しかし彼から意外な返事が返ってきた：「別れてもいいが条件がある」

別れてもいいという言葉に一瞬自分の耳を疑った
そして彼が続けて言った
条件の内容を聞いたとき
私は混乱し驚愕した

その条件とは：
このみと別れる代わりに
私が横田に服従し二週間
彼の奴隷となること

服従？奴隷？この男は一体何を言っているの…？
唐突に言われた言葉に頭の中が真っ白になった

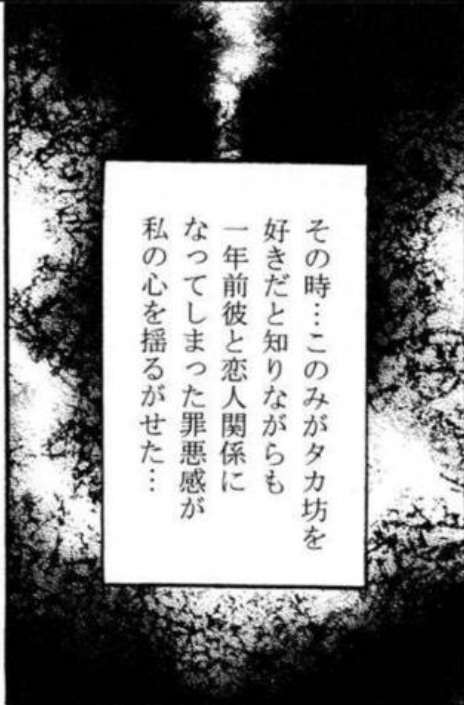
そして私は混乱しつつも何故接点のないこのみを彼が狙ったのか…その理由をようやく理解した

そう…彼の本当の狙いは私だ
幼馴染みのこのみを籠絡し
あのこを助けたいと願う私を
服従させるために画策した事

この馬鹿馬鹿しい条件はとてものめない…
でも今何とかしないと手遅れになってしまう



二週間…そう二週間だけ
私がお慢すればこのみを
救うことができる…



その時…このみがタカ坊を
好きだと知りながらも
一年前彼と恋人関係に
なってしまった罪悪感が
私の心を揺るがせた…



この男は女に不自由しない
人生を送ってきた…自尊心
が強く私を服従させ満足
すれば約束は守るはず…



そして私は彼の条件をのんだ
あれから五日間の間に私は横田
からタカ坊にはとても言えない
ような羞恥行為を受けていた



…マ姉え…
タマ姉…？

…えっ！？

…もし約束を破れば
その時はこの男を
絶対に許さない…っ

大丈夫？タマ姉は
お酒に弱いから
あまり飲まないよう
にしないと…

あっ…ああごめんね
酔ってるせいかな少し
ぼけっとしてた…

そ…そうよね
私って酔うといつも
タカ坊にすごく迷惑
かけちゃうものね

ハハ…タマ姉は
泥酔したら普段と
違って俺に甘えて
くるようになるから



よ：酔ってるから
記憶はちよっと
曖昧だけど…
それは私だって

酔った勢いで
タカ坊に甘えよう
とすることだって
あるわよ…

じゃあさ…俺も
タマ姉に甘えたり
してもいいの？

それはダ・メ・よ
女に甘えるような
男は情けないもの

タカ坊には
男らしくして
もらわないと



向坂は厳しいな…
男だって女に甘えたい
時があるんだぜ

向坂みたいな美人
には尚更そうしたい
と思うけどな

タカ坊が本当に
それを望むなら
いくらでも甘え
させるわよ

タカ坊は
私の大事な
恋人だもの



今の発言を学内の
向坂のファンが
聞いたら死ぬほど
羨ましがらるだろうな

えっ…え？
そうなの…？

私…今までそんな
こと全く知らな
かったんだけど…

自慢するつもり
じゃないけど
彼氏として

そうですね…タマ姉
は美人で有名だし
一年生の間でもよく
知られているから

ハハハ…
本当だよ

同期の友達には
タマ姉が俺の彼女
だってちゃんと
言ってるけどね

友達みんな
羨ましがってた

有名なのは
ちよつと恥ずか
しいかな…でも

タカ坊の恋人と
して私が自慢の
彼女になるなら

それは本当に
嬉しいわね

私もタカ坊が彼氏
ということ自慢
したいけどね♪

自慢の恋人か…
その関係がどこまで
続くものなのか…

オイオイ…二人
とも惚気すぎ
じゃないか？

まったく…

ニヤッ

俺を置いて互いに
惚気合うのは
やめてくれよ…そう
いうのは二人きりの
時だけにしとけ

あはは…
そうですね
すみません

まあ…俺も向坂が
彼女ならみんなに
自慢したくなる
だろうけどな

そうだ…向坂を
俺に譲ってくれ
ないか？河野

な…何言ってるの
冗談でもそういう
こと言わないで…

イヤッ

イヤッ

イヤッ

俺も彼女を
自慢したいし

えっ…？
ちよつと…
やだ…何を…っ

ハハ…全てか
それなら諦める
しかないよな

残念だな…俺も
向坂みたいな彼女
が欲しいんだが…

いいよな？
なあ河野

そんなの絶対に
駄目ですよ横田さん
タマ姉は俺の全て
ですから

横田さんはいつも
綺麗な女性と一緒に
いるじゃないですか

せ…せっかく今まで
こいつと一緒でも
タカ坊の前では平静を
装ってこれたのに…

佐藤が言っていました
けど…横田さんは
色んな女性と遊びで
付き合ってるって

…まったく
あいつは
余計なことを…

タカ坊が目の前にいる
こんな場所で私に手を
出してくるなんて…っ

やめ…

まあな…俺の
女関係は学内で
有名だからな

確かに色んな
女性と付き合っ
てはいるが…

男と女の関係なんて
人それぞれだからな
俺の場合は誰か
一人に絞るよりも

んっ…

沢山の女性と広く
浅く付き合うほうが
俺の性に合っていて
いいんだよ

長い人生…多くの
女性と付き合った
ほうが楽しいだろ

くっ…

ちよ…!!

ちよつと…だめ!
あつ…ああつ
そこは…だめえつ

あつ…んっ…
んく…あん…ッ

よ…横田くん
今は…やめ…

ん?ああ…
俺のこんな持論を
聞かされても
つまらんかな

えっ…ええ…
そ…そうね…んっ
やめて…ほしいわ

今すぐここから…
逃げ出したい…っ
…でも…だめ

ん…ん

それは許されない…
このみのため…今は
…我慢しないと

確かにそう
ですけど…

くっ…こんなこと
されても…逆らえ
ないなんて…っ

役者といつても
主役じゃないん
だから…もつと
気楽に考えてくれ

…んんっ

んうっ

頼むよ…映画の質を
向上させるために
協力してくれ

ん…っ

お前も知っている
だろうが映研には
女性が多いが男は
かなり少ないからな

男の役者が限られて
いるため映画の脚本
の内容も小さくまと
まりがちなんだよ

あっ

あんっ

あ…はあ

ああ…っ

な…なにが…
協力…してくれよ

んうっ

タカ坊の…目の前で
恋人の…私を…
弄んでる…くせに…

あんっ

あ…ああっ

あっ…ああ…っ
こ…このままでと…
イカされ…ちやうっ

ああっ

あっ

はあ

いやっ…だめよ…
そんなの…だめえ

はあ



心配してくれて
…ありがとう

でも…あ…んっ
気分は…いいし
これくらい…
平気…だから



顔も赤いし…
少し酔いを冷まし
たほうがいいよ

そ…そうね
そうする…



タマ姉…大丈夫？
なんか具合が
悪そうだけど…

えっ…！

あっ…うん
だ…大丈夫…



見ては…だめ

んっ

ああっ…私を…
意識…しないで

う…うん…俺の気
のせいならそれで
いいんだけど…

だめよ…タカ坊

ほら…いつもの
酔ってる感じと
何か違ったから

あっ…

体調でも悪い
のかと思ったよ



あなたの…前で…
私…いつ…ちやう

私…最近少し…
っ…疲れ気味…
だから…っ

タマ姉は最近
忙しいもんね

そう…見えるの
かもね…



もう限界なの…





自分の立場を理解して
この場から逃げ出さず
我慢して耐えたのは
褒めてやるよ

はぁ
倒れ…そう

……はぁ…
もう…だめ



はぁ…なんだよ
いたずら…?
迷惑だなあ…



俺はお前を二週間
弄ればそれで十分
満足なんだよ…

この五日間でお前の
覚悟はわかったしな
…約束を破れば俺を
どうするかもわかる



心配しなくても
もちろん約束は
守るさ…



えっ…!

あつ…ちよつと
気分が…悪く…
なっちゃって

いえ…それがただの
いたずら電話でした
……それよりも…
タマ姉どうしたの?

何かすごく
ぐったりしてる
みたいけど…



……っ!

早かったな…
こんな夜遅くに電話
してくるなんて急用か
何かだったのか?



…身体が…熱い

ん〜本当に酔い
とか疲れのせい
なのかな…

もしかしたら
風邪かも
しれないよ？

ち…違うわよ…
風邪なら自分でも
わかるから

私…こんな状況で
あんなに…感じて
イクなんて…っ

でも体調が
悪そうだし

…やっぱり今日は
もう無理しないで
休んだほうがいい
と思うよ

疲れてるのに
俺達に付き合わせ
るのも悪いしさ

後は横田さんと
二人でしばらく
飲んでるから…



…そっ



…そうだな
紅一点の向坂が
居なくなるのは
寂しいが…



…それじゃ…私は
あの…もう休ませて
もらうわね…

…わかった
そうする…

うん…一応風邪薬を
飲んでおいたほうが
いいよ

あつ…そうだ
明日は映画観に
行く予定だった
けどやめとく？



気分の悪い時は
無理せずに

休んだほうが
いいだろう

解放…されるの？
ここから…離れても
いいのね…？

え…そうね…
でも…大丈夫よ

一晩寝たらすぐに
…体調も良くなる
と思うから…

…心配しなくても
私は…これくらい
なら全然平気よ…

くっ…だめ…
身体の震えが…
…止まらない…っ

早く…この場から
逃げないと…っ

…えっと…この後
横田くん…ここに
泊まるのよね…?

あの…タカ坊…私
今晩は二階で…自分
の部屋で寝ることに
するわね…

え?ああ…うん
横田さんには一階の
寝室で俺と一緒に
寝てもらおうから

すまんな河野
同棲している家に
一晩お邪魔して

いえいえ
気にせずに

…こんなこと…
…してくるなんて

実はこの家に誰か
知り合いが泊まる
のは初めてのこと
なんですけどね

へえ…
そうなのか

本当に…最低な男
…いくらなんでも
やりすぎだわ…っ

…たしかこの家は
海外赴任した向坂の
親戚の家を借りてい
るんだったよな

…もう少しで
タカ坊に気付かれる
ところだった…

ええ…あまりこの
家に人を呼んだ事
ないんですよ



大学生活は
順風満帆だろ

向坂とはさっきの
会話からだ毎晩
一緒に寝てるみたい
だが…そうなのか？



大学からも近いし
家賃もタダ…駅も
すぐそこにある

住まいとしては
最高だな…お前
が羨ましいよ

同棲してる向坂との
仲も上手くいってる
ようだし…



あ…はは…っ
まあ…そ…
そうですね…

でもタマ姉と
一緒に寝るように
なったのは

つい最近のことで
少し前までは別々
に寝てたんですよ

…それは俺に
弄ばれて不安定
になった精神を

タマ姉と毎晩一緒
に寝るのはまだ
照れますけどね…

お前と一緒に寝る
事で心の支えに
したかったんだよ



それは恋人同士だ
し当たり前だろ

俺も…ほぼ毎日
色んな女性と
毎晩一緒に寝てる
からな…

イイ男が夜に
独り寝なんて
寂しすぎるだろ

そう…独り寝なんて
嫌だよなあ…河野



俺は大学で初めて向坂環を見た時からあの女を絶対に自分のモノにしようと思い決めていた：たとえどんな手を使っても河野からあいつを奪い取ってみせる

この五日間：向坂は俺の命令に従い恥辱を受けても反抗せずに服従してきた正直あの強い女があそこまで従順になるとは思っていなかったが：それほど幼馴染のこのみの事が大切なのだろう俺に弄ばれても我慢し耐え抜く姿を見てあいつの覚悟は本物だと確信した：もし約束を反故にした時あの女は自分の全てをかけて俺を潰しにくるだろう

残りの期間で焦らずじつくりと墮とし俺の女になるようにしなければいけない今夜あいつは恋人の前で弄ばれてもその場から逃げださず：あの状況で俺に愛撫されて嫌嫌ながらもかなり感じていた向坂の心と身体はゆつくりと確実に墮ち始めている：昨日俺の自宅で十分に快樂という種は撒いたし後はあいつの中にある淫蕩の芽を育てればいいだけだ

- ★ タイトル 服従誓約 I ★ サークル KUSARI ★ 作者 アオイみっく
- ★ 印刷所 サンライズ ★ 発行日 2012 2月1日
- ★ ブログ <http://aoimikku2.blog70.fc2.com> アオイみっくの部屋
- ★ 連絡先 アオイみっくの部屋にあるメールフォームよりご連絡下さい

四日前：横田に二週間服従する条件をのむと大学で伝えた後：私は彼の自宅に連れて行かれそこで女として恥ずべき痴態を彼の前で晒す事になった：

黒い下着か：その豊富な身体によく似合ってるな

横田は本当に私が彼に服従できるのかを試すために私の裸を携帯で撮影させると要求してきたのだ

ハハ：大きいねえ柔らかそうで形も綺麗な素晴らしい巨乳じゃないか

……

私は二週間後に画像を破棄する条件でその要求を受け入れた服従を誓約するからには今これを拒否する事はできない

そうだ…もっとそのいやらしい巨乳を強調してこの俺に媚びてみせろよ

こんな撮影を許す事は私には耐えられない程の恥辱だった：でもここから逃げ出すわけにはいかない

恥ずかしいならやめてもいいぞ

この程度の要求で我慢できないならこのみの身代わりなんて到底無理だ

くっ…

服従する気があるなら今ここで全てをさらけ出せよ

このみのため：二週間必ず服従に耐え抜いてみせる：私は彼の前で全裸になり自分の覚悟を見せつけたわ

そして人生最大の屈辱：私は彼に命令された通りに自分の秘部を拡げ服従の誓いを言葉にした：

さて：向坂の卑猥な全裸画像も十分撮れたことだし：最後の仕上げといこうか

わ：私：向坂環は…これから二週間横田：雅彦様に：

服従する…ことを…誓い…ます…っ

三日前：昨日の撮影で横田への服従を完全に誓約してしまった私はとても気が重かった：

そんな憂鬱気分の私に追い討ちをかけるように彼から私はとても下劣で恥辱的な命令を受けた

その命令の内容とは：横田と一緒に電車に乗り電車内で彼が私に痴漢の真似事をするということ

公共の人目のある場所で抵抗する事もできずに彼にいいように弄ばれるという屈辱：

昨日決意した私の覚悟が揺るぎ始めていた：こんな低俗な命令にはとても従えない！

しかし私は悩んだ末にそれを承諾したわ：今さら後戻りは許されないと考えたから：

だめ…っ

くっ…

ああ…ん

あっ…あ

ああ…

ん…っ

ん…っ

…横田はまるで本当の痴漢の
ように私の身体をいやらしく
撫で回す…私は彼の刺激的な
愛撫に耐えられず…つい周囲
に喘ぎ声を漏らしていた

んんッ

…とは言っても
いるのは男ばかり
だし大丈夫かもな

ほら…向坂…もつと声を
抑えて我慢しないと俺が
お前に痴漢していること
が周囲にばれるだろ？

んう…っ

周りに人が少なくなった
のに合わせて彼はブラの
中へ手を入れ私の胸を揉
み乳首を捏ね回してくる

ククク…向坂みたいなの
美人が無抵抗で痴漢され
てるんだから男なら黙認
して傍観したくなるだろ

ん…んっ

ああっ

そして調子に乗った
横田は更に大胆になり…
ついには私のブラを剥ぎ
取って乳房を露出させた

恥ずかしさのあまり
私はその場から立ち去り
逃げ出そうとしたが彼は
それを許してくれない

私は公共の場の電車内
で周囲の視線を気にし
ながらもその恥辱に
耐えるしかなかった…

はあ

ああ

あ

あん

だめえ

あ

やめ…

二日前…その日は横田の命令を受け彼の自慢の車でドライブデートする事を強要されていた…

デートの間中…この狭く閉じた車内という空間で私は彼からの執拗な愛撫を絶えず受けていたわ

んうっ

ん…っ

ヌ…ッ

カ…ッ

じっとしてろよ…あまり動かれると運転がしにくいから…

だめ…

あんっ

ク…ッ

彼は車の外にいる人達の視線を全く気にする事なく何度も繰り返し強引に私の性感帯を責め続ける…

ああっ

彼に秘部を重点的に愛撫され…私は羞恥と快感に身悶えながらはしたなく愛液を溢れさせていた

あ…あん

随分と感じてるみたいだな…マンコが愛液でぐちよぐちよになってるじゃないか

お…お願い…っ胸を…隠させて…外から…見え…る

もし見られたとしても気にするな…どうせ二度と会う事のない他人だ

ハハ…ダメだよそのエロい巨乳を眺めながら俺は運転したいんだから

あはあ

さ…最低…っ

人通りの少ない路地で車を停車
させると…彼は私を自分の元へ
引き寄せ抱きかかえてから
更に激しく卓越した指技で
アソコを容赦なく責め立てた

ほら…見ろよ向坂
お前の綺麗なマンコ
からいやらしい蜜が
大量に溢れてくるぞ

だめえ

ああん

あっ

もう我慢しないでイキ
顔を晒せよ…ここから
は逃げられないし無理
せず楽になればいい

それからしばらく彼が
満足するまで身体を
騷られ何度も潮を噴き
絶頂させられた…

…絶え間なく襲い来る
快感に抗う事ができず
私は彼の前でひたすら
喘ぎ続け淫らな嬌声を
あげる…

ああ

あはあっ

あああんっ

ああああんっ

前日にあの男に弄ばれて
疲労気味になっていた私に
休息の時はなかった：

日が沈み始めた夕暮れ時：
私は横田と一緒に彼の自宅
でお酒を飲んでいた

私がお酒に弱い事を恐らく
彼は知っているだろうし
私を酔わせる意図も理解し
ていたが従う他はない

この後すぐ彼にこの身体を
弄ばれるのなら素面よりも
酔っていたほうが精神的に
楽だろう：

そして私が酔い始めた頃
横田は突然私に服を脱ぐ
ように命令してきた：
彼に言われるがまま私は
服を脱ぎ下着姿になる

彼は私を抱き寄せると
ゆっくり顔を近づけてくる
私は躊躇し戸惑いながらも
震える唇を彼に重ねた

彼の熱い舌が口の奥まで
侵入すると積極的に私の
舌に絡みついてきて甘い
刺激を与えてくる

んふう…

んっ…うん

んんっ

んんっ

あ…はあ…
ああ…んっ

あん…ああ…
あっ…はああ

はあ…あ

んふう…

キッ

んっ…ん
あんっ…

ねっとり舌を絡みつけられ
口内を這い回られるだけで
頭が真っ白になり身体が震え
全身の力が抜けていく…

んくっ…

んっ

んんっ

ん…っ

あ…ん

私達は長い時間濃厚なキス
を交わした…歯や唇の裏側
まで舐められ彼に流し込ま
れた唾液を何度も飲み込む

…もう…やめて…
こ…こんなキス
私…知らない…っ

はあ

はあ

はあ

今まで河野とは随分
軽いお子様なキスを
していたようだな…

らめ…あん

ああん

私は耐えきれずキスを拒絶
したが彼はやめようとせず
執拗に何度も唇を重ね
卑猥なキスを強要してきた

…意外だったよ
まさか今まで経験
した事が無いとは

長時間の濃厚なキスの後…
更に横田は私に彼の前で跪き
パイズリするよう命令すると
私の眼前に隆々とそそり立つ
大きなペニスをあらわにした

私はパイズリは未経験だと
答えると彼は呆れた顔をして
私にその仕方を指示したわ

仕込み甲斐のある
女だな…これは
残りの期間色々
楽しめそうだ

タカ坊にするならともかく
横田相手に自分の乳房を
こんな性行為に使われると
いうのは本当に屈辱だった

パイズリする事に嫌悪感を
抱きながらも…私は彼を
満足させるため言いつけに
素直に従って服従奉仕した

ほら…俺がさっき
教えた通りに上手く
やってみせろよ

よし歯を当てない
いように注意して
くわえるんだ

ん…っ

横田はしばらく私の稚拙な
パイズリを堪能すると私を
見下ろしながら次にフェラで
イカせるように命令してきた

お前がいつも河野
にしているように
フェラしてみせる

長くて大きな彼のペニス…
タカ坊のモノとは全然違う
黒々としたその異様なモノを
私はためらいがちに舐め始める

んふ

あ…あん

はあ…あ

はあ

あ…

口の奥深くへゆつくりと
くわえ込んでいき口から
涎が垂れるのも構わずに
懸命にしゃぶり続けた

あ…ん

まるで恋人にするみたいに
丁寧にフェラし長い時間を
かけて彼をイカせた後
口内に溢れた精液を私は
飲み込むように強要された

んふっ

んっ

いいぞ向坂…中々
上手いじゃないか
その調子で俺を
イカせてくれよ

んむっ

ん…く

ん…うん

う…んんッ



彼は私に下着を脱ぐように指示し、テーブルの上に座らせると、強引に両脚を開かせて私の前にしゃがみこみ無防備に晒された秘部を舌で激しく愛撫し始めた

腰の奥が溶けてしまうような果てしない快感を与えられ私はアソコから大量の愛液を溢れさせながら恥も外聞もなく喘ぎ声をあげ淫らに悶えた

だめ…あつ

あつ

そこ…あんっ

あう

あじ…

はあ…んっ

ああつ

やだ…ああん
イ…イク…ッ

ああイクうッ

ああはあつ

ああ…っ

初めて彼に私のアソコを舐め回されはしたなくイカされた後…全身の力が抜け快感の痙攣に身をよじる私を彼はおもむろに抱きかかえ隣の部屋の寝室へと連れていく…そして更に淫らな行為を私に強要してきた

寝室に連れてこられてから数分後…部屋に卑猥な音を響かせて私達は裸で身体を重ね合いながらお互いの性器を舐め合っていた

舌や指で敏感になったアソコを激しく責められ…無意識にとめどなく溢れ出る愛液を彼は貪るように飲み込んでいく

私は彼の巧みで執拗な愛撫に翻弄され…耐えられない程の刺激に身体を震わせて何度も絶頂し理性を奪われていった

あん…またイクう…ツ

寝室で彼に弄ばれ私の頭の中は
お酒の酔いと快楽で蕩けていた
そんな私に休む間を与えず
彼は更に私の熱く火照る身体を
容赦なく責め立ててくる

あああッ

ひあ…ああんッ
まって…だめえ

…そのまま動くなよ
この節操なく愛液を
垂れ流す淫乱マンコに
お仕置きをしないと

ククク…どうだ？
こういうモノを挿入
されるのは初めての
経験だろう

このみはこのパイプ
を挿れるのが大好き
になったからな…

お前もすぐに慣れて
この刺激が堪らなく
好きになる

テーブルの前でお尻を
突き出すように命令し
先程まで彼に思うがまま
弄られた私のアソコへ…
ゆっくりと異様な動きを
するモノを挿入してきた

あはあ…ああ
あッああんッ

あああッ

あッ…あんッ

あッ…ん…ッ

あ…んッ

ああッ

だ…だめえ

おねが…い
ぬい…てえ

あ…あんっ

ひああっ

彼の挿入したその物体は
私の膣内を激しく蠢き
快感に溺れる私に狂おし
い程の刺激を与えてくる

横田は私をテーブルの上で
虜状態にすると…
緩急をつけてじっくりと
私の肉体を攻め続けた

ああんっ

あああっ

あっ…ああ
ああん…っ

あっはあッ

はあっ

脚は絶対に閉じるなよ
…もし閉じたらもっと
大きいパイプを挿入
させてもらうからな…

あぁっ

ん…く

んんっ

んふう

あはあ

キュッ

んうッ

この時私は彼にいいように弄ばれる玩具だったわ…乳房を揉みしだかれ濃厚な熱いキスを交わし…膣内を卑猥なモノで掻き回される

はぁ…あぁっ
あぁっ…あん

はぁ

はぁ

らめえ…あぁっ
イ…イクうッ
あッあぁあんッ

あはあぁっ

いや…っ

彼は快感に乱れ悶える私の姿を見て満足気に微笑みながらこの身体を激しく時には優しく責め絶頂へと導いていく…

はぁ

はぁ

あぁんッ

あぁんッ

その日横田から今まで味わった事のない程の強烈な性的快楽をこの身体に覚えさせられ…残りの服従期間彼に性奴として弄ばれ調教されていく事に私は恐怖と不安を感じていた…

あぁ…だめえっ
ゆるしてえ…ッ



服従誓約

KUSARI

アオイみっく